

第2回公表に向けた検討作業について

1 訴訟事件の審理の長期化に関わる要因仮説についての検討

(1) 民事訴訟事件（地家裁第一審）

審理の長期化要因に関する実務的な感触や地域性などの多様な視点を得るため、現場の裁判官らに対するヒアリング調査を実施。この結果に基づき、事件タイプごとの審理の長期化に関わる要因仮説を体系化。

主要各国における審理の長期化の実情やその背景事情、迅速化に関する考え方の異同についての調査を実施。

(2) 刑事訴訟事件（地裁第一審）

長期化する事件のパターンを既済事件を元に抽象化することにより作成して、長期化要因を検討。この結果に基づき、事件タイプごとの審理の長期化の要因仮説を体系化。

2 統計データによる審理状況の分析

(1) 地家裁第一審

第1回公表に引き続き、経年的変化を中心とした継続調査を実施。

事件票の改定項目（上訴の有無、審理期間の大まかな段階別や審理時間の分析、専門訴訟に関する調査とのリンク等）に着目。

(2) 高裁控訴審

高裁控訴審における審理状況についても、主要な統計データに基づいた分析作業を実施。